

平成19年度当初予算案発表資料（平成19年1月29日）

～水と歴史のハーモニー～ 人が輝く いきいき すみだ

1 「すみだ」らしさの息づくまちをつくる

- 1-① 北斎館（仮称）の建設準備
- 1-② 景観まちづくりの推進
- 1-③ 墨堤の桜の保全・創出

2 地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる

- 2-① 都市計画マスタープランの改定
- 2-② 曳舟駅周辺地区の整備－①曳舟駅前地区再開発－
- 2-③ 曳舟駅周辺地区の整備－②京成曳舟駅前東地区再開発－
- 2-④ 曳舟駅周辺地区の整備－③東向島二丁目・京島一丁目地区－

3 新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる

- 3-① すみだの産業を担う人材育成
- 3-② 早稲田大学との産学官連携の推進

4 安心して暮らせる「すみだ」をつくる

- 4-① 地域防災行動力・避難所機能の充実・強化
- 4-② 地域安全マップ作成
- 4-③ 介護軽度者一般寝台購入助成
- 4-④ 子ども医療費の助成対象範囲を拡大
- 4-⑤ 子育て支援総合センター事業の運営
- 4-⑥ 心身障害児療育施設及び心身障害者通所更生施設の整備事業
- 4-⑦ 食育推進事業の展開
- 4-⑧ 内臓脂肪測定器の設置
- 4-⑨ 若手教員指導支援室の設置
- 4-⑩ いきいきスクール（仮称）の実施
- 4-⑪ いじめ問題に対する対応強化
- 4-⑫ 学校校舎・屋内運動場等の耐震強化
- 4-⑬ 学校施設の整備
- 4-⑭ 学力向上「新すみだプラン」の推進
- 4-⑮ 廃プラスチックのサーマルリサイクルモデル収集

5 区民と区が協働で「すみだ」をつくる

- 5-① 「地域プラザ・地域ふれあい館」の整備
- 5-② 区のお知らせ（区報）のリニューアル
- 5-③ 協治（ガバナンス）の推進
- 5-④ 「すみだ やさしいまち宣言」推進事業

6 新タワー建設にあわせて実施する主な事業

- 6-① 新タワー・観光まちづくり推進事業
- 6-② 商業活性化すみだプログラムの実施
- 6-③ 押上・業平橋駅周辺地区の整備
- 6-④ 周遊ルート等歩行者空間整備の検討
- 6-⑤ 吾妻橋防災船着場の整備
- 6-⑥ 北十間川水辺空間の整備
- 6-⑦ 大横川親水公園の歩行者空間再整備
- 6-⑧ 新タワー周辺主要道路の景観整備
- 6-⑨ すみだ地域学セミナーの開催

1 「すみだ」らしさの息づくまちをつくる

件 名	北斎館（仮称）の建設準備
予 算 額	37,759千円
<p>主 旨</p> <p>世界的に有名な画家 葛飾北斎（1760～1849年）が本所割下水（現在の墨田区亀沢）に生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区近辺で過ごしたことから、葛飾北斎の偉業を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点となる「墨田区北斎館（仮称）」の建設に向けて準備を進めていく。</p> <p>本事業は墨田区基本計画に掲げる基本目標“「すみだ」らしさの息づくまちをつくる”の実現に大きく寄与するものであり、また、新タワーとともに本区の新たな観光の核となるものである。</p>	

1-①

件 名	景観まちづくりの推進
予 算 額	5,600千円
<p>主 旨</p> <p>墨田区では、平成16年に街並みのスカイラインを整えるため、最高高さを制限する高度地区の指定を行ったが、指定の無い地域において突出した高さの建物が建築され周辺の景観や住環境に悪影響を与える状況が生じてきている。</p> <p>このような中で、景観形成に対する住民の関心の高まりから平成17年6月に景観法が施行され良好な景観形成のための誘導・規制が明確に位置づけられたことを踏まえて、新タワーによる新たな景観の創出や歴史・文化の資源を活用した景観形成、観光スポットや地域のまちづくりと連携した景観形成に向けて、新たなすみだの都市景観のあり方や方向性を検討し、具体的な誘導策を講じる必要がある。そのため、景観基本計画を策定するとともに景観条例を検討し、地域特性を活かした景観まちづくりを推進する。</p>	

1-②

件名	墨堤の桜の保全・創出
予算額	140,697千円
主旨	<p>隅田公園の桜は、江戸幕府徳川八代将軍吉宗が隅田川沿いに植えたのが始まりとされており、多くの人々が訪れる「花見の名所」となっている。</p> <p>この墨堤の桜は最後の植栽から37年が経過し、大きく成長した桜の枝は互いに重なり合い、表土が流失して土壌が固くなる等、生育環境が悪化して一部の桜に衰弱が見られるようになった。</p> <p>このため、平成15年度は学識経験者、区民、地元公園愛護会、行政委員により構成された検討委員会により隅田公園の将来像を検討し、長期構想を策定した。この構想に基づき、平成16年度から4ヵ年計画で桜の保全・創出事業を実施している。</p> <p>本事業の最終年度である平成19年度は、多くの人がお花見や散策を楽しめるようにするため、園路等の整備を実施する。</p>

1-③

2 地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる

件名	都市計画マスタープランの改定
予算額	10,980千円
主旨	<p>現在の都市計画マスタープランは、墨田区の2020年の都市像を描くことを目的として平成10年3月に策定した。このマスタープランに基づき主要推進プロジェクトが進められ、一定の成果を収めている。一方、墨田区を取り巻く社会環境が大きく変化したことを受け、平成17年11月に新たな基本構想を策定した。</p> <p>このため、基本構想と都市計画マスタープランの整合性を図る必要が生じたことから、平成18年度にマスタープランの改定に着手し、平成19年度にマスタープランを改定する。改定にあたっては、基本構想に掲げている協治（ガバナンス）の理念を踏まえ、区民とのワークショップや地域別懇談会等により幅広く意見を求めながら、基本構想が描くまちの将来像の実現を目指す。</p>

2-①

件名	曳舟駅周辺地区の整備 －①曳舟駅前地区再開発－
予算額	1,130,600千円
主 旨 <p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>曳舟駅前地区では、交通の利便性を生かした都市型住宅の建設や地域の商業集積の核となる大型商業施設の誘致を計画している。</p>	

2-②

件名	曳舟駅周辺地区の整備 －②京成曳舟駅前東地区再開発－
予算額	145,265千円
主 旨 <p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、京成曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>京成曳舟駅前東地区では、地域の実情に合わせた再開発を段階的に進めるため、地区を第一・第二南・第二北・第三の4つに分けて事業を進めている。</p>	

2-③

件名	曳舟駅周辺地区の整備 一③東向島二丁目・京島一丁目地区一
予算額	2,010千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、京成曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>東向島二丁目・京島一丁目地区では、既に事業着手している市街地再開発事業に加え、広域拠点の一角を占める東武曳舟駅前や京成曳舟駅前などの地域において、東京都が進める「街区再編まちづくり制度」を活用して、北部地域における広域拠点化を一層前進させる。</p>

2-④

3 新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる

件名	すみだの産業を担う人材育成
予算額	2,047千円
主旨	<p>ものづくりは日本経済を支える産業であり、墨田区は、ものづくりのまちとして発展してきた。しかし、製造業事業所数が減少を続けており、若者のものづくり離れが進み、子どもたちのものづくり産業に対する関心が低下している。</p> <p>このため、今後ものづくりに従事し、ものづくり人材として産業界を担う人材を育成し、墨田区の産業活性化を図る。また、区内の中小企業勤労者の能力開発を支援し、中小企業の活性化を促進する。</p>

3-①

件名	早稲田大学との産学官連携の推進
予算額	36,274千円
主旨	<p>平成14年12月、墨田区は早稲田大学との間で、幅広い分野での連携を目的とした全国初の「包括的事業連携協定」を締結した。5年目を迎える平成19年度は、同協定の最終年である。</p> <p>そこで、これまで展開してきた数々の事業を総括し、まちづくりを含めた幅広い分野での連携事業の更なる推進・育成を図る。</p>

3-②

4 安心して暮らせる「すみだ」をつくる

件名	地域防災行動力・避難所機能の充実・強化
予算額	42,163千円
主旨	<p>平成18年度に東京都が公表した「首都直下地震による東京の被害想定」を踏まえ、地域防災行動力の要となる防災リーダーの育成と新たな地域連携訓練を行なうとともに、避難所機能を向上させるための環境整備を行う。</p> <p>併せて、初動体制の強化のため防災情報システムを見直し、新たな防災情報体制を構築する。</p> <p>また、寝室などの生活空間の安全対策を図るため、従来の家具の転倒防止器具取り付け助成に加え、ガラス飛散防止フィルム取り付け助成を行なう。</p>

4-①

件名	地域安全マップ作成
予算額	4,748千円
主旨	<p>犯罪を予防するには、従来の「人」に着目した「犯罪原因論」（犯罪の原因を追及・解明し、その原因を除去することにより犯罪を防ぐという考え方）に加え、犯罪が起こりやすい「場所」に着目した「犯罪機会論」（犯罪の機会がなければ犯罪は実行できないという考え方）による対策が注目されている。</p> <p>そこで、墨田区では、この「犯罪機会論」に基づき、地域住民が地域安全マップ作成の過程で、地域を防犯上の観点から点検し、住民自らの犯罪回避能力を高めるとともに、地域がもつ犯罪発生原因の分析力を養い、地域安全に対する意識の高揚を図ることを目的として、地域安全マップ作成をモデル地区を選定して実施する。</p>

4-②

件名	介護軽度者一般寝台購入助成
予算額	8,576千円
主旨	<p>介護軽度者にとっても、寝台を利用することは起き上がり動作時の身体的な負担が軽減されるとともに身体機能の悪化が防止されるなど、地域で自立した生活を将来的に維持することができる。</p> <p>そこで、一般寝台を購入した介護軽度者の経済的負担を軽減する助成事業を実施する。</p>

4-③

件名	子ども医療費の助成対象範囲を拡大
予算額	856,251千円
主旨	<p>現在、墨田区では保険診療にかかる医療費自己負担分について、通院は小学3年生まで、入院は中学3年生まで所得制限なしで無料化することで、子育て家庭の経済的負担を軽減し次代を担う子どもたちを安心して育てることができる環境づくりを進めている。</p> <p>平成19年度は、さらに安心して子育てができる環境づくりを促進するため、通院についても助成範囲を中学3年生まで拡大する。</p>

4-④

件名	子育て支援総合センター事業の運営
予算額	22,985千円
主旨	<p>墨田区では、将来を担う子どもたちが健やかに生まれ育つことができる地域づくりを目指し、平成16年度に「墨田区次世代育成支援行動計画」を策定した。この計画に基づき、平成18年度は在宅での子育てを支援する拠点施設として「墨田区子育て支援総合センター」の整備に着手した。</p> <p>平成19年度は、4月に「墨田区子育て支援総合センター」を開設し、子育て支援サービスの提供・調整、総合相談等の総合的な子育て支援事業を行うことで、区民が安心して子育てができる環境の充実を図る。</p>

4-⑤

件名	心身障害児療育施設及び心身障害者通所更生施設の整備事業
予算額	8,400千円
主旨	<p>近年、心身障害児療育施設及び心身障害者更正施設の利用希望者は増加しているが、区の施設はすみだ福祉保健センターにそれぞれ1ヶ所のみで、全ての利用希望者を受け入れることができない状況が続いている。</p> <p>このため、平成22年4月を目途に、旧文花小学校校舎（文花1-32）南棟1階及び外側部分を改修し、心身障害児療育施設・心身障害者通所更生施設の両施設を整備し、より多くの利用者を受け入れる体制づくりを行い、利用者が社会的に自立した生活が送れるよう支援する。</p>

4-⑥

件名	食育推進事業の展開
予算額	4,435千円
主旨	<p>区民の主体的な健康づくりを支援する目的で、平成18年3月に策定した「区民の健康づくり総合計画」の主要施策である食育を推進するため、現在策定作業中の「墨田区食育推進計画」に基づき、関係機関と連携して総合的な食育の推進事業を展開する。</p> <p>また、この事業に関連して学校での食育や、「すみだやさしいまち宣言」推進事業で取組む「すみだ家庭の日」推進運動でも食育を普及させる事業を行う。</p>

4-⑦

件名	内臓脂肪測定器の設置
予算額	1,131千円
主旨	<p>区民の主体的な健康づくりを支援する目的で、平成18年3月に墨田区が策定した「区民の健康づくり総合計画」では、これまでの病気の早期発見・早期対応から、健康の維持・増進により発病を予防する「一次予防」を重視した施策への転換を図るとともに、一人ひとりの健康づくりを区民自らが積極的に取り組み、健康増進に向けたより良い生活習慣をつくるための支援を進めることとしている。この考え方を踏まえ、区内の各施設に内臓脂肪測定器を設置し、区民が自分のからだの状態を把握することにより、日本人の死亡率の約1/3を占める心臓病や脳卒中発症の原因ともなる「メタボリックシンドローム」の予防や生活習慣を改めるきっかけとしてもらう。</p> <p>また、区民の健康づくりへの意識の涵養や知識の向上を図るツールとして活用する。</p>

4-⑧

件名	若手教員指導支援室の設置
予算額	3,918千円
主旨	<p>団塊の世代の大量退職により今後ますます新規採用教員が増加することが見込まれ、その育成・支援の在り方が教育界全体の課題となっている。</p> <p>このような状況の下、保護者から児童・生徒の学力向上や規範意識の育成が学校に強く求められている中で、若手教員の育成を体系的に実施し、その資質の向上を図ることが必要である。</p> <p>そこで、新たに教職員研修室（横川小学校内）に若手教員指導支援室を設置し、初任者研修の一環として年間を通して学校や学級の状況をとらえた実践的な指導・援助を行うとともに、採用2～4年目の教員を対象とした研修とも関連付けて実践的な育成プログラムを確立し、将来の墨田区の教育を担う教員づくりを目指す。</p>

4-⑨

件名	いきいきスクール（仮称）の実施
予算額	3,600千円
主旨	<p>国の「放課後子どもプラン」の機能を充実させる場として、従来から児童館等において、放課後児童の安全な遊び場の提供や学童クラブ事業の定着を図ってきている。</p> <p>平成19年度では、小学校1校において、地域の方々の協力を得て、「放課後子ども教室推進事業（いきいきスクール）」を試行的に実施する。実施にあたっては、「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」（学童クラブ）はそれぞれ独立させながら、ゆるやかに連携し、放課後対策事業の推進を図っていく。</p>

4-⑩

件名	いじめ問題に対する対応強化
予算額	19,546千円
主旨	<p>いじめ問題は、大きな社会問題となっており、いじめの未然防止、いじめが発生した場合の早期発見・早期解決、事後のきめ細やかな対応の充実・強化が求められている。</p> <p>そこで、いじめ問題への対応は各学校単位で行うことを基本とした上で、教育委員会との協働体制を充実させ、区全体としてのいじめ問題への対応力強化を図る。</p>

4-⑪

件名	学校校舎・屋内運動場等の耐震強化
予算額	805,520千円
主旨	<p>学校施設は、児童・生徒が1日の大半を過ごす「生活の場」であると同時に、大震災などの際に、地域住民が寝泊りする緊急避難場所の役割を果たす場所である。</p> <p>そのため、墨田区では、学校の安全性を最優先に考え、小中学校の校舎・屋内運動場の耐震度・老朽度に応じて改修・改築し、耐震補強を順次実施する。</p>

4-⑫

件名	学校施設の整備
予算額	1,212,316千円
主旨	<p>学校施設は、児童・生徒にとって1日の大半を過ごす「学習・生活の場」である。</p> <p>そのため、墨田区では、児童・生徒が充実した学校活動を展開できる施設環境を備えるとともに、豊かな人間性を育むのにふさわしい快適で十分な安全性や衛生的な環境を備えた学校施設を整備していく。</p>

4-⑬

件名	学力向上「新すみだプラン」の推進
予算額	42,585千円
主旨	<p>児童・生徒に、自ら学び主体的に問題を解決するなどの「確かな学力」を身に付けてもらうことが、重要な課題となっている。そこで墨田区では、平成16年度から「開発的学力向上プロジェクト」を立ち上げ、児童・生徒を対象に「学習状況調査」を実施し、その結果に基づき学力向上のための授業改善等を行ってきた。また、平成17年4月から実施した、学力向上「新すみだプラン」では、「すみだ教育研究所」を設置し、「開発的学力向上プロジェクト」の一層の充実や「土曜補習教室」などを実施するとともに、家庭学習の支援にも力を入れてきたところである。</p> <p>この間、「学習状況調査」結果の分析等を通じて、墨田区全体の児童・生徒の学力の傾向を把握することができた。そこで、平成19年度では、子どもたちの更なる学力向上を図るために、児童・生徒一人ひとりの特質と課題を把握した上で、個人の実態に応じた指導を行っていく。</p>

4-⑭

件名	廃プラスチックのサーマルリサイクルモデル収集
予算額	77,488千円
主旨	<p>最終埋立て処分場の延命化のために、廃プラスチックを埋め立て不適物とした東京都の決定を受け、23区及び23区清掃一部事務組合では、平成20年度に廃プラスチックのサーマルリサイクルを本格実施することとした。この本格実施に向けて、平成19年度に区内の一部の地域で、廃プラスチックのサーマルリサイクル（廃プラスチックを可燃ごみとし熱回収する。）のモデル収集を実施する。モデル収集を通じて、廃プラスチック混合可燃ごみの焼却実証確認を行い、環境への影響や施設の安全性等について検証する。</p>

4-⑮

5 区民と区が協働で「すみだ」をつくる

件 名	「地域プラザ・地域ふれあい館」の整備
予 算 額	10,000千円
<p>主 旨</p> <p>これからの公共施設は、区民の価値観やライフスタイルの変化、地域における課題の変化などに対応し、協治（ガバナンス）を具現化するための拠点としての役割が求められている。</p> <p>そこで、新基本計画の中で新たな公共施設整備の考え方を示し、既存施設の老朽化や学校統廃合の時期を考慮しつつ、近隣のコミュニティ施設等を順次「地域プラザ」に再編・統合し、併せて、地域プラザのサテライトとしての「地域ふれあい館」の整備を進めていくこととした。</p> <p>今年度は、旧第五吾孺小学校を「地域プラザ第1号」の建設候補地として位置づけ、地域住民と協議を重ねながら、施設のあり方を検討していく。</p>	

5-①

件 名	区のお知らせ(区報)のリニューアル
予 算 額	80,746千円
<p>主 旨</p> <p>現在発行している区報については、単色刷りで文字が多く読みにくいなどの意見があったことから、より読みやすく親しみがあり正確な情報を掲載した区のお知らせにするため、平成18年度にリニューアルに向けた検討を行った。</p> <p>検討結果を受けて平成19年度では、ページ数の増、カラー・2色刷りとするほか、新たにメールによる区報の配信、コンビニエンスストアでの配布を実施する。</p>	

5-②

件名	協治（ガバナンス）の推進
予算額	9,198千円
主旨	<p>墨田区では、「基本構想」及び「基本計画」に掲げた、協治（ガバナンス）の考え方を区政の運営に組み込んでいくため、平成18年8月、「協治（ガバナンス）の仕組みづくり検討委員会」を設置した。検討委員会では現在までに「墨田区協治（ガバナンス）『中間のまとめ』」をとりまとめられており、平成19年度は墨田区協治（ガバナンス）の仕組みづくりに示された課題のうち、速やかに実施すべきものから、事業化を図っていく。</p>

5-③

件名	「すみだ やさしいまち宣言」推進事業
予算額	14,458千円
主旨	<p>墨田区では、「人」と「地域」と「環境」にやさしいまちづくりを目指し、平成12年7月に「すみだ やさしいまち宣言」を行い、区民との協働により、様々な実践活動に取り組んでいる。この一環として平成16年度には、すみだのまちの担い手となる「人づくり」を一層推進するため、毎月25日を「すみだ 家庭の日」と定め、家族や地域でのふれあいのきっかけづくりとなる事業を展開している。</p> <p>平成19年度は、これまでの事業に加え、新タワーを核とした「観光のまち すみだ」をアピールするため、区民・団体・NPO・企業等の協働のもと、来街者をあたたかく迎える「もてなしの心が息づくまちづくり」のための諸施策を推進する。また、「すみだ 家庭の日」の運動として、食育を通して家族の絆や地域の結びつきを深める事業を展開する。</p>

5-④

6 新タワー建設にあわせて実施する主な事業

件名	新タワー・観光まちづくり推進事業
予算額	20,000千円
主旨	<p>新タワー建設地である押上・業平橋駅周辺地区及びその周辺（すみだ中央エリア）における新たな将来都市像としての「押上・業平橋地区まちづくりランドデザイン」に基づき、新タワーを核とした観光まちづくりを推進する。</p>

6-①

件名	商業活性化すみだプログラムの実施
予算額	8,000千円
主旨	<p>区内商店街は、消費者ニーズの変化や大型店・新業態店の進出等により商業環境が大きく変化する中で、後継者不足や転廃業の増加、空き店舗の増加など厳しい状況に置かれている。一方、都市型観光の展開や区内各地域で進められている拠点整備において、商業の果たすべき役割は、ますます高まっている。</p> <p>このため、区では平成18年度に「拠点地区と連携した商業整備計画」と「商店街ごとの地域特性を生かした商業振興策」を2つの柱とする「商業活性化すみだプログラム」を策定し、活性化への道筋づくりを行っている。</p> <p>平成19年度は、同プログラム策定後、パイロット事業として、モデル地区を選定しエリアマネジメント体制の構築、ビジネスプラン作りなどの事業に着手し、新タワー建設までの4年間を目的に、まちづくり・観光商業の核となる体制作りを進める。またタワーを訪れる観光客をターゲットに、回遊性のあるまちづくり、商店街における集客力の強化を図る。</p>

6-②

件名	押上・業平橋駅周辺地区の整備
予算額	10,041千円
主旨	<p>押上・業平橋駅周辺地区は、平成15年3月に地下鉄11号線の延伸による東武伊勢崎線相互乗り入れが実現し、交通結節点としての機能が強化された。今後は、新タワーを活かした区内各所への観光の入口として、また、高度な商業・業務・文化・住宅機能が集積し、かつ、高い防災性を備えた多機能な「広域総合拠点」としてのまちづくりを推進していく。</p> <p>平成19年度は、地区計画の策定を行う。</p>

6-③

件名	周遊ルート等歩行者空間整備の検討
予算額	5,000千円
主旨	<p>新タワー建設に伴い、建設地である押上・業平橋駅地区を中心とする区内の観光地等には、多くの来街者が訪れることとなり、来街者に区内を安全・快適に観光してもらうことは、重要な課題である。</p> <p>そこで、国道・都道・区道の観光ネットワーク化を図り、歩道の整備や統一した標識等の整備のあり方、路上障害物等の指導を検討するため、関係機関との連絡会を設置し、良好な道路空間の整備を推進する。</p>

6-④

件名	吾妻橋防災船着場の整備
予算額	10,000千円
主旨	<p>現在の区役所脇に設置されている吾妻橋防災船着場は、平成2年の区役所庁舎建設に合わせ設置されたものであるが、災害時に物資輸送船等が着岸するためには規模が小さく、経年（設置から17年が経過）による劣化も進んでいることから改修が必要となっている。</p> <p>また、新タワーの建設に合わせ、隅田川を軸とした地域連携の促進や回遊性の向上を図るため 吾妻橋防災船着場を平常時においても定期観光船が発着できる「観光用船着場」として整備する。</p>

6-⑤

件名	北十間川水辺空間の整備
予算額	47,000千円
主旨	<p>新タワーの建設を機に、江東内部河川の水辺空間を活かしたまちづくりと観光の推進を図るため、平成18年度に「北十間川水辺活用構想」を策定した。この構想に基づき、新タワー建設街区の前面を流れる北十間川（東武橋～京成橋区間）を新タワー水辺拠点ゾーンとして、平成22年度末までに整備する。</p>

6-⑥

件名	大横川親水公園の歩行者空間再整備
予算額	6,000千円
主旨	<p>大横川親水公園は、錦糸町地区、両国地区から新タワーの建設街区に通じる重要な周遊ルートの一環となるものである。しかし、平成5年に開園した同公園は、園路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>そこで、園路等の改修やバリアフリー化、外国語を表記した案内看板等の再整備を行い、区民はもとより来街者が安全・安心に散策を楽しめるような歩行者空間とする。</p>

6-⑦

件名	新タワー周辺主要道路の景観整備
予算額	10,000千円
主旨	<p>2011年の新タワーの完成により、多くの来街者が訪れるとともに周辺道路は観光バス等の大型車両の通行量の増加が予測される。</p> <p>そこで、観光を楽しむ来街者の回遊ルートを確保するとともに、車道と歩行者空間の快適性を向上させる整備を行い、あわせて車道の耐久性を高める。整備箇所は、新タワー建設街区と浅草方面を結ぶ言問通りと桜橋通りである。</p> <p>平成19年度は、現況測量及び実施設計を行う。</p>

6-⑧

件名	すみだ地域学セミナーの開催
予算額	4,500千円
主旨	<p>墨田区は江戸庶民文化の発祥の地であり、区内には、江戸時代からの伝統を引き継ぐ歴史や文化が今に伝えられている。これらに光を当てれば、新タワー建設を期に内外から訪れる多くの人々に対し観光スポットとしてアピールできる。その際、地域への深い理解と誇りをもった区民が「おもてなしの心」をもって来街者と接することができれば、さらに大きな観光資源となる。そこで、新タワーのオープンに向けて、区民がすみだの地域を再認識するとともに、「おもてなしの心」を発揮できるよう、すみだについて学ぶことができる講座の開講や情報の提供を行う。</p>